

二〇二二年度 入学試験問題

国語 (六十分)

- ・問題は「一から三」まであります。
- ・解答用紙は一枚です。
- ・解答は全て解答用紙に記入して下さい。
- ・句読点、記号なども字数に含みます。

一 次の文章を読み、あとの問に答えなさい。

A 食には、食べる「モノ (Food)」と、食べる「コト (eat)」、両方の意味があります。おいしい食を考えると、おいしさのヨウイン^aが、目の前にある料理というモノにあるのか、仲間と楽しく食卓を囲んでいるというコトにあるのかは、人それぞれでしょう。

1 食べることは、その人特有の意思や意識が潜んでいます。何を食べるか、どのように食べるか、なぜ食べるかには、必ずといっていいほどその人の「マイルール」が存在します。宗教の禁忌^{*}によって食べないこともあれば、ベジタリアン食や話題の食を好んで食べるということや、小さい頃からの好き嫌いで食べる食べないということもあります。食べるという行為には、個人や集団、時代や文化などの考え方が入っています。ちょっと大げさにいえば、「思想的な食の選択」を私たちは日々行っています。

米国の文化人類学者マーヴィン・ハリス氏は、「食べものというのは、胃袋に入る前に、集合精神のウエ^bを満たさなければならぬ」、つまり「食べるものを選択できるのであれば、個々の食べものの特性ではなく、人々の思考パターンによって決まる」と話しています。

ふだん私たちがものを食べるときは、食に対する精神、観念、価値体系などといったことをいちいち気にかけません。食が習慣化されているため、立ち止まって考える必要性がないからです。食の思想といったものを自覚するのは、親しんできた食習慣や食行動に変化が生じたり、異質な食文化や食環境に出会ったときです。たとえば、旅行、転居、結婚、入院などをした際には、食についてふだんよりも強く何かを思うことがあるでしょう。

B 日本人が思う「寿司」⁴と海外の人が思う「sushi」は、必ずしも一致しません。それがはっきりあらわれたのが、2006年、海外での間違った日本食の蔓延^cをキグした日本の農林水産省が、正しい日本食店を認証する「海外日本食レストラン認証制度」の創設を発表したところ、海外メディアから一斉にバッシングを受けるといふ「事件」⁵でした。「スシポリスが日本からやってくる」と^{*}揶揄^ゆされ、多くの非難を集めたことなどで、最終的に農水省は実施を見送りました。スシに対する「保護主義」と「自由主義」というある種の「食のイデオロギー対立」^{*}が起こったといえます。

日本人からみるとちよつと怪しげなものであつても、現地の人にすればれっきとしたスシであることは間違いありません。同じように日本やアメリカのピザも、イタリア人は憤り^いを覚えるかもしれないでしょうし、インド人からすれば日本のカレーも奇妙に感じることでしょう。(中略) おいしい料理は、国境を越え、その土地で変容し、
① 化する宿命をもっています。

また食べものは、政治的なイデオロギーなどにわかりやすく使われることもあります。日本国内では、「日本米」がイデオロギーに利用されていた時代がありました。1930年代の満州事変の頃、「日本米が、日本の国体を守る国民心性を育み、天皇制を支えるひとつの土台になる」と²されました。また、第二次世界大戦時のドイツでは、ヒトラーが自らのベジタリアン思想を用いて、意志力の強さは肉食主義にあると述べ、戦争に勝つための「正しい食」のあり方を主張していました。それは「ベジタリアン・イデオロギー」と呼べるものでした。

人々の考えを誘導し、その行動を左右するために使われてきた歴史が示すように、食は集団の心をつかんだり、動かしたりする
③ 的な力をもっています。

C 私たちは、ふだん、個人的な特徴とまわりにある社会集団との関わりの中で、自分が何者なのかを定義して、社会的なアイデンティティを作り上

げています。「何を食べるか」「どのように食べるか」といったことは、すべてアイデンティティの形成作業につながっています。

中世ヨーロッパの貴族の食事などでは、食べる行為が、自己イメージや他人に対してのイメージを作り出し、社会的地位、身分、人気について暗示することで、ステータスシンボルの役目も果たしてきました。また現代でも、オーガニックの野菜を食べる人やファストフードの牛丼を食べる人に、固定観念的な見方を抱く人もいるでしょう。食べるという個人の行為は、社会的な意味をもち、人々のアイデンティティの「コウチク」に重要な役割を果たしています。

【X】、食によるアイデンティティは、個人だけではなく、国家や地域、人種や階層、ジェンダーなどのヒエラルキー形成にも反映され、強化されています。前述したスシは、日本人にとって「国民食」の代表であり、だからこそ「ナショナル・アイデンティティ」を感じやすい対象です。そのため、自分たちが思い描くスシと異なるスシを目にすると、感情を揺さぶられる人が多いでしょう。他の国、韓国であればキムチ、米国であれば感謝祭の七面鳥、英国であればフィッシュ・アンド・チップス、オーストラリアであればベジマイト（パンなどに塗る塩辛いジャムのようなもの）などは、国民食にあたるといわれ、それぞれの食べものが、その国のアイデンティティ形成に深く関与しています。さらに、地域、人種・民族、家庭などには、それぞれの「ソウルフード」があり、それらが精神的な支えになっている場合もあります。

日本の国民食のひとつといえるものに、梅干しがあります。日本にきた外国人が、初めて梅干しを食べる動画がSNSなどに多数トウコウされており、その多くは、見た目やにおいからは予想できない塩^{しよ}っぱさに、顔をしかめたり、悶絶^{もんぜつ}したりしています。この反応は、その人が「I」を示しています。つまり、梅干しのような日本っぽいものを普通に食べることは、そうした人が日本人である可能性が高いことを示す一方、驚くような反応を示す人はそうではないことを暗示しています。

スシや梅干しの例が示すのは、食が、集団や個人のアイデンティティにとって大事な要素であり、とりわけ、その人がどの国家や地域、人種・民族に属しているかを明らかにするものだとことです。人々の間で維持されてきた食文化は、個々の帰属意識を育む際に重要な役割を果たしています。【Y】、お正月に食べるおせち料理や雑煮などは、家族のアイデンティティ、自己のアイデンティティの形成に関与してきたことでしょう。

梅干しを食べる、食べないといった食行動は、その人が「うちわの仲間」なのか、「部外者」なのかの違いを明確にします。そうした食による「II」が、アイデンティティを維持し、私たちに自分と他人を区別する認識をもたらしています。【Z】、特定の食べもの選択や、特定の食べ方が、所属する集団を結束させる一方、その枠から外れる人は、集団から排除される場合があるということです。食のアイデンティティは、集団における受容と排除というコインの裏表のような二面性をもつ、とてもシンボリックなものとして私たちのごく身近に存在しています。

（石川伸一『「食」の進化史』より）

（注）※禁忌……してはいけないこと。

※揶揄……からかうこと。

※イデオロギー……人間の行動を左右する根本的なものの考え方。

※アイデンティティ……自分は自分であって、他の誰でもないことの確認。自己同一性。

※ヒエラルキー……ピラミッド型の階級組織。

問一 二重傍線部 a ～ f について、カタカナのものは漢字に直し、漢字のものはその読みをひらがなで記しなさい。

問二 傍線部 1 「食べることには、その人特有の意思や意識が潜んでいます」とあるが、筆者が「潜んでいます」と表現したのはなぜか。答えとなる次の文の空欄に入る語句を字数指定に従って A 文中から探し、抜き出して記しなさい。

▼食べることは人々にとって (① 三字) しているので、そのつど食に対する意味や (② 四字) について気にしないから。

問三 傍線部 2 「その人の “マイルール” を言い換えた言葉を A 文中から八字で探し、抜き出して記しなさい。

問四 傍線部 3 「旅行、転居、結婚、入院などをした際には、食についてふだんよりも強く何かを思うことがあるでしょう」とあるが、「結婚」の例について、なぜ「食についてふだんよりも強く」思うことがあるのか。十五字以上二十字以内で説明しなさい。

問五 傍線部 4 「日本人が思う『寿司』と海外の人が思う『sushi』は、必ずしも一致しません」とあるが、これは日本人が「寿司」に対して何を感じていることを示しているか。答えとなる語句を C 文中から十四字で探し、抜き出して記しなさい。

問六 傍線部 5 「海外メディアから一斉にバッシングを受ける」とあるが、その理由となる次の文の空欄に入る最も適当な言葉を B 文中から八字で探し、抜き出して記しなさい。

▼海外の人にとっては () であるにもかかわらず、日本人がそれを認めない態度を示したから。

問七 空欄 ① ～ ③ に入る最も適当な言葉をそれぞれ次の中から選び、記号で答えなさい。ただし同じ記号を重ねて用いてはならない。

イ 断定 □ 賛美 ハ 分散 ニ 多様 ホ 拡張 ヘ 支配

問八 【ア ～ Z】に入る最も適当な言葉をそれぞれ次の中から選び、記号で答えなさい。ただし同じ記号を重ねて用いてはならない。

イ たとえば □ ところで ハ さらに ニ しかし ホ つまり ヘ たしかに

問九 傍線部6「日本にきた外国人が、初めて梅干しを食べる動画」とあるが、この動画から食が人々にとってどのような意味を持っていることがわかるか。答えとなる次の文の空欄に入る言葉をC文中から四字で探し、抜き出して記しなさい。

▼何を食べるかということがそれぞれの() ()を持つことにつながっていくということ。

問十 「Ⅰ」に入る表現として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- イ 外見と味の違いに驚きを隠せないこと
- ロ 日本固有の礼儀作法を知らないこと
- ハ 独特で刺激的な味が苦手であること
- ニ 日本の食文化になじんでいないこと
- ホ 期待していたおいしさではないこと

問十一 「Ⅱ」に入る言葉として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- イ 基準値
- ロ 安心感
- ハ 境界線
- ニ 国民性
- ホ 特殊化

問十二 傍線部7「コインの裏表のような二面性」について説明したものとして最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- イ 人それぞれの食の好みによって何を食べて、何を食べないかという二面性が決定づけられるということ。
- ロ ある集団がその国の食文化に従うか、従わないかは政治的イデオロギーと関係しており、人々を分断するということ。
- ハ 何を食べて、何を食べないかということが人々の連帯意識を作る一方で、対象外の人は受け入れないということ。
- ニ 食べる行為はその人のイメージを左右し、周囲の人々に受容されるか排除されてしまうかが決まってくるということ。
- ホ その国のソウルフードを食べることでその人は受容されるが、精神的に何かが変わるわけではないということ。

二 次の詩を読み、あとの問に答えなさい。

大空高く凧揚げて

服部 誕

父が死んでからずっと
ひとり暮らしをしていた母の家の納戸※はんどのなかに
ぎっしりと貯めこまれていたのは
大きさにまともめられた紙袋
端をそろえてきちんと畳まれた包装紙
ありとあらゆる色の紐ひもの束

震災でなにもかも失くしてから二十年以上過ぎて
もういちど一から取り置き きちんと仕分けして
若かったころのように

¹性懲りしやうちやうこもなく隠し持っていたのだ

またなんぞの折に使えるさかい

という母の口癖が

畳まれ括くくられ整理整頓された

この反古層※ほごくすのあいだから聞こえてくる

いっそ

紙袋の丈夫な紙地を台紙に使い

あるだけの包装紙を張り重ね

色目をうまく貼り交ぜていつて

母の似顔の描かれた巨大な凧を作ろうか

紐は全部 どんどんどんつなげていつて

長い長い揚げ糸にする

さあ 大空高く凧を揚げようぞ
母が残したものを使い尽して

2 空のてっぺんにまで凧を揚げよう

舞い上がれ 舞い上がれ どこまでも

大空高く 母よ 舞い上がれ

3 おお これこそがなんぞの折だわな

母の哄笑こうしょうが空から降ってくる

わたしは納戸の前に座りこみ

色とりどりの美しい紙と紐を片付ける

4 何の役にも立たなかったその X を思いだしながら

母を片付ける

『三日月をけずる』より

(注) ※納戸……普段使用しない衣類や調度品などを収めておく空間。

※反古屑……紙くず。

問一 この詩は五つの連から成っているが、全体が作者のイメージとなっている連を全て探し、漢数字で記しなさい。

問二 傍線部1「性懲りもなく隠し持っていた」とあるが、作者はなぜ「隠し持っていた」と考えているのか。その説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- イ わずかでも手元に残しておきたいから。 □ 見つかると捨てるように言われるから。
ハ 近所の人に知られると恥ずかしいから。 二 死んだ夫の思い出が詰まっているから。
ホ 後になって驚かせようと思ったから。

問三 傍線部2「舞い上がれ 舞い上がれ どこまでも」に用いられている表現技法を次の中から二つ選び、記号で答えなさい。

- イ 折句 □ 押韻 ハ 反復法 二 対句法 ホ 倒置法 ヘ 体言止め

問四 傍線部3「母の哄笑が空から降ってくる」とあるが、ここから母のどのような様子がかがられるか。その説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- イ 息子のとんでもないアイデアを心から楽しんでいる様子。
ロ 息子の差し出がましい行為をとっても迷惑に感じている様子。
ハ 息子のストレートな愛情表現に感動している様子。
ニ 息子の貧相なアイデアを本当に情けなく感じている様子。
ホ 息子の他人を馬鹿にしたような態度に腹を立てている様子。

問五 X に入る言葉として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- イ 素直さ □ 誠実さ ハ おもしろさ 二 おおらかさ ホ きちようめんさ

問六 傍線部4「母を片付ける」に含まれた意味として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- イ 母との思い出とともにその遺品を整理したということ。
- ロ 不必要になった母の遺品を淡々と整理しているということ。
- ハ 最後まできちんと母の遺品は整理しておきたいということ。
- ニ 天に母が旅立つためには遺品を整理することが必要だということ。
- ホ 大切にしていた母の遺品であるため整理に時間がかかるということ。

三 次の文章を読み、あとの問に答えなさい。

A その一軒の本屋から黒いマントを三角に靡なびかせたようにして学生が一人さつと駈かけだした。そしてすぐそのあとを二三人のやはり黒マントの男の子がついて走った。走る男の子の先頭の一人は碧郎へきろうだと見た。けれどもよく見極められないうち、こちらの電車はゆるゆる通りすぎて停留所へ停車し、男の子たちは折まから走りだした反対側の電車へつぎつぎと、翼を納めて木の洞うらのなかへはいって行く鳥のように飛び乗ってしまった。

彼の出て来た本屋は、こちら側の停留所のはす向いである。げんはその店屋のなかに何かはっとする空気を直感した。小店員が何かただでないような顔をして戸口へ出て来、あちらの電車のほうを向いているのだった。大勢学生ばかりが押しこんで込んでいる店のなかはおちつきがあつて、出て来て眺ながめている小職員一人が妙なふうにならわっている感じなのだ。なんとなくへんな様子だった。でもげんの電車はそれをあとにして走りだしてしまった。

へんだと感じたげんは、うちへ帰るなり碧郎に云った。「あんた、きょう学校の前のところで飛乗りしなかった？」
彼はぎよつとしたのを隠せなかった。「しねえや。」

「うそ！ あたし見ていたもの。」³ 本屋から駈けだして来て、ひよいと乗ったわ。誰だかお友だちでしょ、あとから二三人やつぱり駈けだして来て同じ電車に乗ったわよ。」

「おれじゃない。……ちがわい。」

「おかしいな、たしかに横顔碧郎さんみたいだったけど。」

碧郎はたったそれだけの短い会話のあいだなのに、顔をそらせて貧乏ゆるぎをりはじめていた。げんはこれは碧郎にちがいない、何か胡散②うさんくさい、ときめた。折角そこまで気がついてきていながら、なんといつても若かった、そう深刻には考えきれないのだった。ただ無闇むやみと訊きただしたく思っただけだった。それは経験というものがなく、へたなやりかただった。

「それになんだか変だったわ。あんた出て行ったあと、あの本屋の店員あそこへ出て見送ってたわよ、あんたたちのほうを。」

「……」 碧郎はげんの見たことのないような、まるで大人っぽい顔をしてこちらを見た。見据みすえたという見かたで見た。ちよつとこわかった。「ねえさん、それおれじゃないけど。いったい姉さんそれどこで見てたんだい？」

げんは庄おされてきた。「どつて、電車の中からよ。叔父おじさんのうちへ行ったんだもの。」

「……おれはしよつちゅう飛乗りはするけどね、おればかりが飛乗りするんじゃないよ、——あそこは学生が多いからね。学生はみんなおんなじ恰好かっこうしているからね。」

「そりやそうだけど、たしかにあんただと見たけどなあ。」

【 i 】 びっくりするような声で彼は云った。「知らねえやい、しつっこいな、ねえさんは。」

B どちらなかつたらそれで済んだかもしれない。どなられたら蓋が飛んだようにすっかり碧郎のなかが見えた。げんは自分でもわけがわからずにはずみがついて、するするつと背骨の伸びたみたいになった。じいつと弟を見た。弟は恐れげもなくげんを見かえしている。弟のほうの、眼の底から敵意みたいなものがあがってきた。げんは負けられない。眼をそらさない。げんも敵意に似た激しい腹立ちをもった。弟はすわっていた位置をいざつて、押入の襖まであとずさりして行き、襖を後ろ楯にしたかたちでおもむろに片膝を立て腰を浮かし、【ii】手を伸ばして机の上をまさぐり、手にさわったインク壺を握った。怒りがげんの度を失わせた。——あれをあたしにぶつける気なんだ。侮辱である、暴力なんて。

「インキなんかによ。そんなもの！」そう云つたらげんはぶるぶる顫えだした。顫えが見せなくなかったから、すくつと起ちあがった。弟がはつとひるんだ。透かさず、というほどゆとりがあつたのではない。弟のひるみに掃き出されでもしたようなふうに自然と、「碧郎さん！」と改まった口調が出た。声はひとりで改まった調子で出たので、そこまでげんが意識的で計算してやったのじゃないのだ。が、無意識に出た声の調子が、そのあとの調子も改めさせてしまった。それはいつもの友だちであるきょうだいではなくて、姉という一步上の格にいるものの態度をとらせた。弟の眼は弱々しくなつた。げんも吊られて弱く優しさを取戻した。もう少しで度を失つたまま口から出てしまふところだつたことばが止まった。

「あんた、あの本屋で何かやつたんでしょ？」

その先はもうわかっている、——何か盗つたんじゃない？ ということだ。げんははつきりそう思っていた。睨みあいなんてものは、僅かなその時間が済んでしまふとけろつとばかみたいにだらしなくなるものだ。

よく考えれば、それは何といういやなことなのだか。しかし「弟がものを盗んだ」ということは、あの睨みあいのとき疑いようもなく、間違ひもなく、すぽんと姉の心のなかへ事実になつて置かれてしまった。どうしてみようもないのである。そんなことを心のなかへ置いて行かれたつて、げんにはどうしてみようもないのだ。それより、「おとうさんもかあさんもまぬけなんだ。碧郎さんはあんなことをやっているじゃないか、それを私が知っているじゃないか。それだのおとうさんもかあさんも、碧郎さんのことにも、私の知っていることにも気がつかないなんて、なんてばかなんだ。なぜ早く、げん大丈夫なんだろうね、碧郎、おまえなんにもしていないな、つて云わないだろう。じれつたいまぬけなおとうさんかあさんだ」といらいらする。けれども、いくらいらついてもげんは実際としては碧郎から何を白状させたというのでもなくて、自分の推測だけなのだ。心のなかでは碧郎が何かした、盗つたと思ひこんでいるのだけれど、証拠は何もないし、睨みあいが済んでしまった今となつては、もはやも一度あの状態へ戻して、せつぱつまったかたちで弟に何か云わせることは不可能だつた。ひそかにげんは碧郎の本棚や持ちものや抽出を捜して調べた。何もわからなかつた。碧郎はげんを隔てるようなそぶりを見せている。

父母の不和な家は、父母は夫婦という一体ではなく、二人の男女という姿に見える時間が多い。そういう家は子と親もよその家ほど、くっついていゝる時間が少ない。その子もきょうだいの中がばらばらなのが多い。それをこの家ではわりあいに中のよい親密な姉と弟だつたのに、げんが【iii】電車の窓からへんな光景を見てしまったのをきつかけにして、距離ができてしまった。きょうだいはどうとう一人一人になるらしかつた。しかし姉は困惑しながらもとうとう両親にそのことを云わずにしまつた。

(幸田文『おとうと』より)

問一 「i」 「iii」に入る最も適当な言葉をそれぞれ次の中から選び、記号で答えなさい。ただし、同じ記号は重ねて用いてはならない。

イ 徐々に □ 偶然 ハ やがて ニ いまだ ホ いきなり ヘ もはや

問二 波線部①②③の意味として最も適当なものをそれぞれあとの選択肢から選び、記号で答えなさい。

①折から

イ 季節から □ 運よく ハ その場所から ニ ちょうどその時 ホ 予定通り

②胡散くさい

イ どころなく怪しい □ それとなく間違いだ ハ どうしようもなく奇怪だ ニ なんとなく不思議だ

ホ なかば疑いが晴れる

③度を失わせた

イ 呼吸を一瞬止まらせた □ 言葉を詰まらせた ハ 心をひどく混乱させた ニ 顔を青ざめさせた

ホ 体を思わず硬直させた

問三 傍線部1「げんの電車はそれをあとにして走りだしてしまった」とあるが、「げん」は何のために電車を利用していたのか。それが最もよく示されている一文をA文中から探し、始めの四字を抜き出して記しなさい。

問四 傍線部2「ぎよっとしたのを隠せなかった」とあるが、弟の心の動きが行動に表れている部分をA文中から十五字以上二十字以内で探し、その始めと終わりの四字を抜き出して記しなさい。

問五 傍線部3「本屋から駆けだして来て、ひよいと乗った」とあるが、この様子を何に例えているか。傍線部3より前のA文中から十五字以上二十字以内で探し、その始めと終わりの四字を抜き出して記しなさい。

問六 傍線部4「へたなやりかただった」とあるが、それはなぜか。その理由として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

イ 電車に飛び乗ったことを不用意に問いただしてしまったことで、弟に反抗的な態度をとらせることになってしまったから。

ロ 確実な証拠があるにもかかわらず、軽率にも弟を追いついでしまい、かえって自白させることができなくなったから。

ハ 半信半疑であったにもかかわらず、無実であってほしいという願いから質問したことで、逆に疑いを深める結果となったから。

ニ 大勢の学生の中に弟がいたことにそれほど確信がもてないにもかかわらず、思い込みから第一人に罪を着せてしまったから。

ホ 深刻に考えることなく、弟の不審な行動の理由を尋ねたことで、かえって疑いを深めることになってしまったから。

問七 傍線部5「碧郎のながが見えた」とはどういうことか。その説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

イ 碧郎がうそをついていると確信した。 ロ 碧郎が暴力を振るうだろうと予測できた。 ハ 碧郎の怒りが直接伝わってきた。

ニ 碧郎の心の動揺がはっきり読み取れた。 ホ 碧郎が考えている魂胆が明白になった。

問八 傍線部6「げんはぶるぶる顫えだした」とあるが、この時の「げん」の気持ちとして最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

イ 弟が反撃に出ることに恐れおののき、状況の悪さに悲しくなっている。

ロ 弟の行動から自分がみくびられていると感じ、怒りが湧いてきている。

ハ 弟の本音をうまく引き出せず、後悔の念が胸に押し寄せてきている。

ニ 弟がいけない行いをしたことがわかり、正義感に駆られてしまっている。

ホ 弟の反抗的な態度に驚いているが、負けまいと自分を奮い立たせている。

問九 傍線部7「弟がはつとひるんだ」とあるが、これをきっかけに「げん」はそれまでとは違う振る舞いをするようになる。これを説明した次の文の

空欄に入る表現をB文中から十七字で探し、抜き出して記しなさい。

▼「げん」は（ ）を示した。

問十 傍線部8「弟の眼は弱々しくなった」とあるが、これを説明した次の文の空欄に入る言葉をB文中から二字で探し、抜き出して記しなさい。

▼それまで弟の眼にあった（ ）が消えていった。

問十一 傍線部9「距離ができてしまった」とあるが、この出来事より前、姉と弟はどのような関係であったか。それを示す十一字の表現をB文中から

探し、抜き出して記しなさい。

以下
余白

国語解答用紙

受験番号

氏名

合計

一 問一

a ヨウイン
b ウええ
c キグ

d 育みみ

e コウチク

f トウロウ

小計

二 問二

①

②

問三

(八字分)

(八字分)

三 問四

(二十字分)

四 問五

(十四字分)

五 問六

(八字分)

六 問七

①

②

③

問八

X

Y

Z

七 問九

(二十字分)

問十

(二十字分)

問十二

(二十字分)

二 問一

(二十字分)

問二

(二十字分)

問三

(二十字分)

(二十字分)

三 問四

(二十字分)

問五

(二十字分)

問六

(二十字分)

三 問一

i

ii

iii

二 問二

①

②

③

小計

小計

三 問三

(二十字分)

問四

(二十字分)

問四

(二十字分)

四 問五

始め

終わり

五 問六

(二十字分)

問七

(二十字分)

問八

(二十字分)

六 問九

(十七字分)

七 問十

(二十字分)

問十一

(十一字分)

(十一字分)